

1 実際の最終形態 (卒論=pdf) への変換

hiki+keynote で卒論の内容が出来てきたら，それを実際の最終形態つまり卒論の pdf へ変換する必要があります．

ここで問題が発生します．hiki よりも latex の方が機能が豊富なこと．つまり，簡易に書くには hiki などの mark down で書いていくのがいいんですが，文書として完成度高めるには，latex で細かい設定を調整する必要があるどうしても出てきます．

具体的には，

1. 図の配置を調整する wrap の数値調整
2. 参考文献の記述
3. リスト，引用の体裁
4. 章立て階層構造

などが問題になるところです．

これは hiki ではどうしようもありません．一つの手はもう少し高機能な mark up 言語例えば asciidoc などに変更することですが，これはどこまでいっても終わりのない方向のようで，結局は latex で書いているのと同じになる可能性があります．

我々は違う戦略をとります．それは，

latex をベースにして，hiki を生成する

と言う手です．

DRY(Don't Repeat Yourself) 原則さへ守ればいいのですから，ある段階までおすすめは hiki ではなく latex を原本にするのです．そのための変換器 latex2hiki とその派生 rake 環境が用意されています．そちらに進んでください．

ただ，その前に hiki でできることをとことん突き詰めておきます．これは，単純な文書，たとえば abstract とか中間発表の handout 程度では十分に役に立つコマンド群です．

1.1 install

```
hiki -i
```

で install されています．新たに使うコマンド群は次の通りです．

```
rake change_wrap      # change latex figures to wrap format
rake latex             # latex conversion FILE1
rake latex_base        # latex conversion FILE1(hiki) to FILE2(latex)
rake latex_wrap        # latex conversion FILE1 with wrap format
```